

# 今こそ暮らし応援の施策拡充へ!



## 不安に寄り添うコロナ対応を!

### 日本共産党が主張



ねぎしかず議員



井坂 なおし議員



大村洋子議員

何はさておき...やはり暮らしです

物価が高い。  
こんな時だからこそ

提案

### 1 給食費の 保護者負担の軽減を!



本来ならば国の制度で無償化へ

食料品をはじめ生活必需品の値上げが深刻。井坂なおし議員は学校給食・未就学児の保育・教育施設における給食の負担軽減措置を市長に求めました。

市長は「急激な保護者負担の増とならないように、できる限りの対策を講じていく」と答弁。井坂議員はさらに給食費の無償化にも触れ2人の子どものいる家庭の給食費は年間で10万円以上の出費。実質賃金が上がらずコロナ禍で多くの家庭が収入減。今こそ給食費の無償化が求められると主張しました。市長は「その政策は好ましいこと」と認めつつも国待ちの姿勢に終始しました。

提案

### 2 消費税は減税へ インボイスは延期に



消費税のインボイス制度の延期を求める請願が市民の方々から出されました。中小業者、個人事業主、フリーランスの営業を窮地に追いやるものとして大村洋子議員は意見書の採択を求めましたが、賛成少数で否決でした。物価高騰の今こそ、消費税の減税が必要とねぎしかず議員も民生常任委員会で主張しました。



提案

### 3 暮らしに欠かせない 上下水道 家庭負担は軽減を!

審議会の答申をふまえて2カ月で20㎡の基本水量の廃止が示されました。このことで、水道基本料金及び下水道使用料が上がる家庭下がる家庭、両方出てきます。依然として、水道・下水道経営は将来的に課題があることが質疑を通して明らかになり、加えて技術系職員の人材不足・技術承継の問題も益々重要となっています。引き続き暮らしに欠かせない上下水道事業のあり方について論議を交わしていきます。



#### コロナ第7波

### 国の方針がないために 小手先の対応に終始

#### 電話が通じない

オミクロン株BA2系のコロナ感染症が爆発的に増え8月に入っても毎日500人~800人の感染者が出ています。7月には「帰国者接触者センター」の電話が通じず市民に不安の声が溢れました。

#### 救急医療センター周辺は大渋滞に

7月連休には検査目的で訪れた人々で周辺が混乱。地域住民から懸念の声が寄せられました。8月行われた議会・コロナ協議会では健康部、保健所から説明報告があり、近隣の駐車場などを利用して誘導し、現在は落ち着いているとのことでした。コロナ感染が疑われる方へ抗原検査キットを無料配布して自主療養を促しています。

#### 高齢者・基礎疾患のある方は自己判断ではなく 医療へアクセスが大事

医療資源確保の観点から「みなし陽性」「自主療養」を進めていますが、感染リスクの高い高齢者や基礎疾患の方は率先して医療にかかることが大事です。我慢して手遅れになることのないよう、必要な方々の医療が保障されるために引き続き働きかけてまいります。



熱中症

水害

# 気候危機 は 待ったなし!



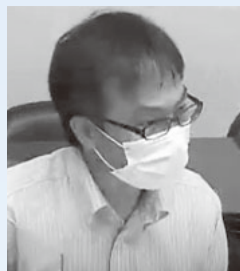
## 日本共産党の提案が生きる! 9か所の公共施設に太陽光パネル設置

日本共産党は石炭など化石燃料依存を止めて、再エネ、省エネを強く訴えてきました。

**井坂なおし議員**は公共施設への太陽光パネル設置の利点を

- 1 避難所開設時の非常用電源として活用
- 2 新たな公共事業として地域経済に好影響として提案。今回それが具体的に実現。市内の小中学校や行政センター9か所に太陽光パネルと蓄電池の設置が公表されました。

「ゼロカーボンシティ」実現のためにはさらなる設置拡大が必要です。日本共産党はこれからも強くはたらきかけてまいります。



井坂 なおし議員

## プラスチックの分別が変わる

今年4月からプラスチックに関する考え方が大きく変わる法律が施行されました。「海洋プラスチック問題」「気候変動」等を契機に今までのようなどんなプラスチックでもどんどん作って、使い捨てというスタイルを変えていくことになります。

### 廃プラスチックが燃せるゴミから回収へ

今まで廃プラ（ハンガー、バケツ等）は生ゴミと同じ燃せるゴミでしたが、今後は容器包装プラと同じように回収することとなります。一部地域で11月から実証事業が行われ、その後、地域に分別変更のゴミトークが展開される運びです。

### 久里浜花の国隣接地に 民間企業がリサイクルプラントを建設

「プラ新法」を受けて横須賀市に国内最大級と言われるプラスチックを回収し再利用・成形する工場が始動する予定となっています。プラントではたくさんのプラスチックが必要となるため遠方からの搬入も。騒音、振動、排気ガスなど地域への影響が心配です。周辺住民にしっかりと説明が大事と**大村洋子議員**は指摘しました。

### ゼロカーボンシティ実現に寄与と言うが…?

プラントではすべて100%再エネの電力を使いプラスチックと石灰石を混ぜて紙の代替品をつくると言います。製造工程で使われる薬品や溶剤への懸念の声が寄せられていますし、これで、本当に抜本的にプラスチックの軽減につながるのでしょうか。疑問が残るところです。

## 戦争に加担しない 平和な横須賀こそみんなの願い



大村洋子議員

長引くロシアによるウクライナ侵略、他方、米国下院議長による台湾訪問を機に米中による軍事的威嚇強化が表面化、これにともない、横須賀を母港とする原子力空母R・レーガンの動きも活発化し、横須賀市にとっても無関係ではない状態です。

**大村洋子議員**は一般質問で住民投票によって作られた「旧軍港市転換法」を起点にまちづくりを進めるべきと正面から市長に迫りました。

## 人体に有害なPFOS（泡消火剤）が流出 米海軍は市民に実態を報告し謝罪を

横須賀市は「大変遺憾」として原因究明、周辺環境への影響、再発防止を国に要請していますが、いまだに市民の不安には応えていません。国待ちの姿勢ではなく、市長が直接的に司令官とやり取りするくらいの事案ではないでしょうか。このように市域に外国の軍隊があることは間違いなくまちづくりにとってマイナスです。9月定例議会でも追及してまいります。

## 地域の声、利用者の意見を大切に 「小中学校」、「みんなの家」の 縮小・廃止計画

現在、小中学校では田浦、長浦、船越の地域と走水、馬堀の2か所において協議会が開かれ議論が行われています。「田浦のまちは地形上谷戸が深く、小学校まで1～2km、長浦ではトンネルを3つくぐる。こどもの安全や防犯を考えていない計画なのは」また、走水地域の方からも「小学校がなくなれば地域がすたれてしまう」という声も出ました。議会でも**ねぎしかずこ議員**が市長に認識を問いましたが、「コミュニティを再生することが私の役割」と言いながら学校廃校は仕方がないといううちはぐな答弁でした。



長浦小学校



田浦小学校



ねぎしかずこ議員

市の職員をよんで行われた市民団体主催の出前トークでは「子どもだけでなく高齢者も健康維持のために使っている」「平らなところにあり投票所として重宝している」「音楽室もあって喜んでいる」と参加者からたくさんの廃止しないでの声がありました。市は「厳しい財政状況」「人口減少」などと廃止ありきの姿勢が顕著で、利用者の声を聴かずに進めようとしていることが浮き彫りになりました。

市の施設は市民のもので、良いまちづくりのためには市民と行政が共に知恵と力を出し合うことが大切ではないでしょうか。



## 実現! 喜ばれています! 住宅リフォーム助成事業



昨年の党市議団の提案により実現した、住宅リフォーム助成事業。受付開始から8日間で予定の200件を上回ったということで、予想通り市民に歓迎されました。抽選から漏れてしまった方々のためにも高い市民ニーズに応じて、事業継続するよう働きかけていきます。